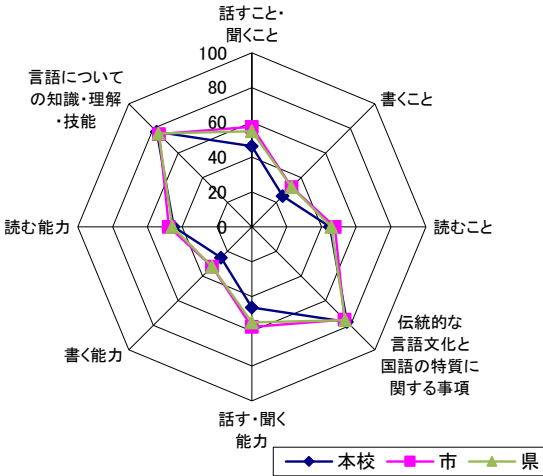


宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	46.3	57.5	54.9
	書くこと	25.0	32.3	32.3
	読むこと	44.9	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	46.3	57.5	54.9
	書く能力	25.0	32.3	32.3
	読む能力	44.9	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	77.2	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市平均より下回っている。 話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題では、市の平均より11点下回っている。また、正答率の差が大きく、かなり個人差が見られた。	・話し合い活動を授業の中で多く取り入れる。その際、話す時のポイント、聞かされるポイントを押さえられるよう指導する。 ・話し手の意図を考えながら、大切なことを聞き逃さないように聞く態度を養う。 ・グループで話し合う際に、話し合いの役割分担などに気を付けたり、テーマに沿って話し合ったりする機会を意図的に増やしていく。
書くこと	●市平均より下回っている。 文章構成を意識し、内容を工夫して報告レポートを書く問題では、市の平均より15.9%下回っている。 メモを基に、報告レポートに記述する内容を考える書く問題では、白紙のままの回答も多く、問題文を読んで何を書けばいいのか理解することに課題が見られた。	・短い文を書く活動や、日記指導を通して、書くことへの抵抗感が少なくなるようにする。 ・学校行事や生活等の振り返りを短作文に書かせるなど、継続的に作文指導を行い、文章を書くことに慣れるようにする。 ・思ったことや考えたことを各教科でも記述する機会を増やし、文章を書くことに慣れるようにする。
読むこと	○市の平均とあまり変わらなかった。特に、登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える問題では、市の平均より6.2%高い正答率であった。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む問題では、市の平均より4.1%下回る結果であった。	・物語文の学習では、直接言葉に表されていない登場人物の気持ちや思いを読み取ることができるよう、人物の気持ちを想像したり、物語の中での人物の気持ちの変化に注目したりする活動を多く取り入れる。 ・日頃から読書に親しむ機会を多く設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みは約90%の正答率で、多くの児童が正しく読むことができています。 ●「指定」の読みでは、誤答が多く、個人差が大きかった。 ○主語・述語を類別する問題では市平均より4.6%高い正答率であったが、クラス内では個人差が見られた。	・漢字ドリルを中心に、漢字の読み書きを繰り返し指導する。 ・復習プリントや50問テストを活用し、既習の漢字を復習する機会を多く設け、苦手な漢字の読み書きが克服できるようにする。 ・フォローアップシートを活用し、主語と述語の役割を再度確認し、定着を図る。